

## 第3章 歴史・文化芸術

### 第1節 特色ある地域文化の推進

#### 1 文化芸術活動の振興

##### (1) 現状と課題

文化芸術は、人々に感動を与え、生きるための前向きな力を育むとともに、人々の情緒と感性が磨かれることにより、地域の特性を活かした多様な文化の発展や、地域社会の活性化が期待されています。

本市においては、市民を対象に舞台芸術等の鑑賞事業や市民の文化芸術活動をサポートするための事業を展開しています。

また、若年層等が文化芸術に触れるきっかけづくりとなる事業も実施しています。

今後は、地域で文化芸術活動を発展させていくために、誰もが気軽に参加できる事業の実施や人材を育成する取組が必要です。

##### (2) 課題解決のための推進方策

- 市民のニーズに応じた芸術鑑賞機会の充実
- 子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実
- 文化芸術活動発展のための人材育成事業の展開

##### (3) 目標設定

- ◎ 市が主催・共催する文化芸術公演鑑賞者数に対する推計人口の割合  
(巡回小劇場、西いぶり定住自立圏文化事業、NPO法人伊達メセナ協会等)

目標設定年度 2017年度(平成29年度)	中間年度 2023年度	目標年度 2028年度
7,301人(人口34,579人)	7,470人(人口32,477人)	7,661人(人口30,642人)
21.11%	23.00%	25.00%

※ 目標設定年度の人口は、年度末における住民基本台帳人口

※ 中間年度及び目標年度の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計値(2018年(平成30年)推計)を基に算出

## 第2節 歴史文化を活かしたまちづくりの推進

### 1 歴史文化資源の活用

#### (1) 現状と課題

本市には、国・北海道・市の指定を受けた史跡や重要文化財、記念物があるほか、市民が所有する古文書や武具甲冑類、仙台神楽などの有形・無形の文化財が数多く存在しており、その中には、史跡北黄金貝塚公園や迎賓館のように広く公開・活用されている文化財もあります。

しかし、大半は有効に活用されておらず、市民や観光客の多くがその価値を理解できていないのが現状です。

市民がわがまちへの愛着を持ち、誇りを感じられるようになるには、本市の歴史と文化の成り立ちを正しく理解し、学校教育や社会教育の場において歴史文化資源を活用することが不可欠であり、経済活性化やまちづくりを進める上で、これらの価値を広く周知し、理解を促進しながらさらなる文化資源の保存に繋げていくことが重要です。

#### (2) 課題解決のための推進方策

- だて歴史文化ミュージアムの活用
- 博学連携\*1の取組

#### (3) 目標設定

- ◎ だて歴史文化ミュージアム（本館）の1日平均観覧者数（有料及び減免）及び満足度

	目標設定年度 2018年度(平成30年度)	中間年度 2023年度	目標年度 2028年度
1日平均観覧者数(有料及び減免)	—	33人	43人
アンケート調査の満足度(来館者)	—	70.0%	90.0%

\*1 博学連携とは、  
博物館と学校が相互に連携・協力して子どもの教育に当たる取組

## 2 文化財の保護と適切な展示保管環境の維持

### (1) 現状と課題

本市に所在する多くの文化資源のうち、特にその価値を認められて国・北海道・市から指定を受けた文化財は、後世に確実に引き継ぐために、それぞれの材質・性質に適した維持管理が必要です。

また、北黄金貝塚や善光寺跡のように観光客が多く訪れる史跡は、来訪者管理を適切に行い、き損の防止と周囲の景観保護を図ることが重要です。

さらに、文化財を保護するためには、市民に対する文化財保護意識の啓蒙や、未指定文化財の計画的な指定化の推進、市内の展示保管施設における適切な維持管理等を行っていく必要があります。

### (2) 課題解決のための推進方策

- 指定文化財の保護対策と指定化の推進
- 展示保管施設のモニタリングによる管理
- 子どもたちが文化財に触れる機会の充実

### (3) 目標設定

#### ◎ 国・北海道・市による指定文化財の新規の指定件数

目標設定年度 2018年度(平成30年度)	中間年度 2023年度	目標年度 2028年度
—	1件	3件

※ 指定件数は累計による。

#### ◎ 展示施設の見学や文化財に関する出前授業等を行った市内小中学校の児童生徒数の割合

目標設定年度 2018年度(平成30年度)	中間年度 2023年度	目標年度 2028年度
—	35.0%	50.0%

